

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科		
科目名称	博物館資料保存論						授業形態		講義	
科目コード	710103	単位数	2単位	配当学年	3	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	永友 良典								ICT活 用	
授業概要	博物館資料の保存について、資料の特質を理解し、様々な劣化要因を取り上げながら適切な保存環境や保存方法、資料の活用について学ぶ。さらに、資料保存の原点である正倉院で行われてきた宝物への曝涼作業について学ぶとともに、空気環境の汚染につながる化学薬品等を用いた強制的な保存作業から、自然環境に配慮した保存管理に重点を置いた文化財IPM作業や自然災害から文化財を守り救出する文化財レスキュー作業の現状など新しい活動について学ぶ。 なお、県教育委員会在職中に宮崎県総合博物館や宮崎県立西都原考古博物館で約20年間の勤務経験があり、文化財IPMコーディネーターの資格も有しており文化財保存に関する豊富な実務経験を持ち、東日本大震災や熊本地震等の際には文化財レスキュー活動にもかかわった。また、宮崎歴史ネットワークに所属しており文化財保全活動のボランティアに携わっている。以上の経験を十分授業に活かしていく。									
関連する科目	1年次及び2年次に履修した学芸員養成課程に関する科目									
授業の進め方 と方法	授業で取り扱う重要なキーワードを事前にまとめおき、授業で取り上げながら要点をまとめる。関連する写真データを使いわかりやすく授業を進める。									
授業計画 【第1回】	第1回 博物館資料保存論について 博物館資料の保存について概要と重要性を概説する。									
授業計画 【第2回】	第2回目 博物館における資料保存活動 宮崎県総合博物館や宮崎県立西都原考古博物館での資料保存活動を紹介する。									
授業計画 【第3回】	第3回 文化財保護の歴史 我が国の文化財保護の歴史（曝涼―燻蒸―文化財IPM）を解説する。									
授業計画 【第4回】	第4回 博物館資料の劣化要因の概要 博物館資料を劣化させる7つの要因の概要を紹介する。 ①温度・湿度 ②照明・光 ③空気質 ④生物被害									
授業計画 【第5回】	第5回 博物館資料の劣化要因の概要 博物館資料を劣化させる7つの要因の概要を紹介する。 ⑤移動・輸送 ⑥災害 ⑦人的要因									
授業計画 【第6回】	第6回 博物館資料と温度・湿度 博物館資料の劣化の要因のひとつである温湿度管理による資料の劣化理由、劣化状態、劣化対策について解説する。									
授業計画 【第7回】	第7回 博物館資料と生物被害 博物館資料の劣化の要因のひとつである害虫による資料の劣化理由、劣化状態、劣化対策について解説する。									
授業計画 【第8回】	第8回 博物館資料と生物被害 博物館資料の劣化の要因のひとつであるカビによる資料の劣化理由、劣化状態、劣化対策について解説する。									
授業計画 【第9回】	第9回 博物館資料と照明・光 博物館資料の劣化の要因のひとつである照明と光による資料の劣化理由、劣化状態、劣化対策について解説する。									
授業計画 【第10回】	第10回 博物館資料と空気質 博物館資料の劣化の要因のひとつである空気質による資料の劣化理由、劣化状態、劣化対策について解説する。									

授業計画 【第11回】	第11回 博物館資料の生物被害対策の歴史 「曝涼」から「燻蒸」さらに「文化財IPM」 博物館資料に対する保存活動の流れを解説する。特に、1300年以上も続けられてきた日本古来の文化財保護システムである「曝涼」について「正倉院」での活動もあわせて解説する。
授業計画 【第12回】	第12回 博物館と文化財IPM 九州国立博物館を中心に全国の博物館等で取りこまれている文化財IPM活動について解説する。授業では「文化財IPM」を実践する宮崎県総合博物館の活動も紹介する。
授業計画 【第13回】	第13回 博物館と災害 地震や津波、水害等の災害から文化財や博物館資料を守るための危機管理体制、被災資料の救済と修復活動等の文化材レスキュー活動等について解説する。授業では阪神淡路大震災や熊本地震等の大災害での文化財レスキュー活動を紹介する。
授業計画 【第14回】	第14回 博物館資料の修復 文化財修復の意義と方法について解説する。伝統的な技術で行われている修復作業を学び、その意義や方法を理解する。さらに、文化財修復には修復技術者との協働での取り組みが必要であることを解説する。
授業計画 【第15回】	第15回 自然系博物館での資料保存 植物系の博物館を中心に動物系、地質系の自然史系資料の保存修復対策について解説する。
授業の到達目標	人類共有の財産である博物館資料や文化財を適切に保管、管理し、積極的な活用を進めるために、先人から受け継いだ資料を後世に受け継いでいかなければならないのか。その理由を考え、そのために必要な保存修復や保存処理に関する基礎知識を学び、学芸員としてどのような資料保存を行えば良いかを判断できる能力を付ける。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)
授業時間外学習【予習】	提示する重要なキーワードについて、内容を事前に調べる。(30分)
授業時間外学習【復習】	授業で解説したキーワードと課題についてまとめる。(30分)
課題に対する フィードバック	提出されたレポートにコメントする。
評価方法・基準	定期試験80点 提出課題等20点
テキスト	毎回、資料を作成し配布する。
参考書	使用しない。
備考	